

# 相棒

# あなたの



人間誰しも、大切な人・物・場所があるはず…。府立生野高校写真部の皆さんと一緒に、そんな誰かのかけがえのない「相棒」を紹介します。第20回目は、南新町にあるリボン徽章・くす玉・抽選器を製造されている「渡辺徽章株式会社」代表の渡邊千佳子さんです。

ワクワクをもっと広めたい

みなさんは「徽章」とは何かをご存知だろうか？昔、「勲章」は大変高価なものだった為、もっと安価で華やかさを損なわないものとして「徽章」と呼ばれるものが考案されたそうだ。私も入学式や卒業式などでリボンを胸に付けたことがある。それがリボン徽章だ。

渡辺徽章株式会社は昭和52年創業。徽章だけでなく、くす玉や抽選器（福引きなどでガラガラと手で回すアレ）も作っている。

このような商品を作る会社は日本全体でも二社程度しかなく、西日本ではここだけだと聞いて、まずとても驚いた。さらに驚きはこれだけにとどまらない。徽章がどのように作られているのか？私は正直、機械で大量生産していると思っていた。しかし実際は職人さんの手で一つ一つ丁寧に作られていた。昔ながらの部屋にラジオが流れる中で、和気あいあいとした雰囲気の中で7人の女性の姿があった。仕事の楽しさを聞くと、「おしゃべりやく」と答えてくれた。ところが、そんなおしゃべりをしながらでも、ただひたすらに手が動いている。相当細かで複雑な作業に見えるのだが、見ているうちにスイス

イと徽章が出来上がってゆく。全てを手作業でこなし、年間に数十万個の徽章を作ると聞いた。長い職人歴があるからこそ出来る離れ業だ。くす玉や抽選器も、やはり全て手作業で職人さんが作るという。

父親である先代から会社を引き継いだ千佳子さんの悩みは、ズバリ「後継者」問題。「うちの仕事は、伝統工芸でも地場産業でもないんです。だから、この職人業を絶やしてはいけない」という危機感がそもそもみんな乏しい。今回の取材を受けたのも、こういう事実や仕事にもっと関心を持って欲しいという願いからです。少しでも多くの若い人たちがこういう仕事をやってみたいと感じてくれたら…千佳子さんの言葉から、強い思いが伝わってきた。

相棒は「針」。徽章作りのほとんどは針仕事だ。手作業だからこそ感じる、美しさや丁寧さ、そして温かさ。「ハレの日」に「華」を添えるためには欠かせないモノ。日本全国の「ハレ舞台」を数少ない職人さんの手作業が支えている。飾らない職人さんたちの真剣な姿はすぐく若く輝いて見えた。

文 野口花梨（二年）

※今回広報まつばらに載らなかった写真部が撮影した写真は市ホームページで見ることが出来ます。

